「翻訳詩」の饗宴から

〝詩〟の「翻訳」は、
翻訳と日本語の可能性を追求する
本道である。
近代日本の詩人・作家・批評家にとって、
「詩とは何か」ということは
「詩の翻訳とは何か」に等しかった。
日本人にとって「翻訳」とは〝詩〟とは何か
日本語とは、文学とは、言葉とは……
いま再び問う。

p.2 .... 「翻訳詩」事典 フランス編

p.5 .... ボードレール 明治・大正期 翻訳作品集成

p.8 ... 明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》 ＊価格表 ...p.10

「翻訳」の宇宙へ

学術資料出版
大空社出版

〈共同出版〉大空社出版 / ナダ出版センター　出版目録

「翻訳詩」事典

フランス編

編著 榊原貴教（さかきばら たかのり）

明治以降の「翻訳詩」の深奥で馥郁（ふくいく）たる文学世界を
厖大な**原典引用**（作品・詩論と翻訳者・原作者）で鳥瞰し、見せる
真にユニークな〝初の〟「翻訳詩」事典

詩を詩歌を読む、
日本語でより深く味わうための
〝新〟文学事典

Il pleure dans mon cœur
Comme il pleut sur la ville ;
Quelle est cette langueur
Qui pénètre mon cœur ?
— Paul Verlaine

ヴェルレーヌの名詩
この４行の翻訳に日本人は
どれだけ心血を注いだか……

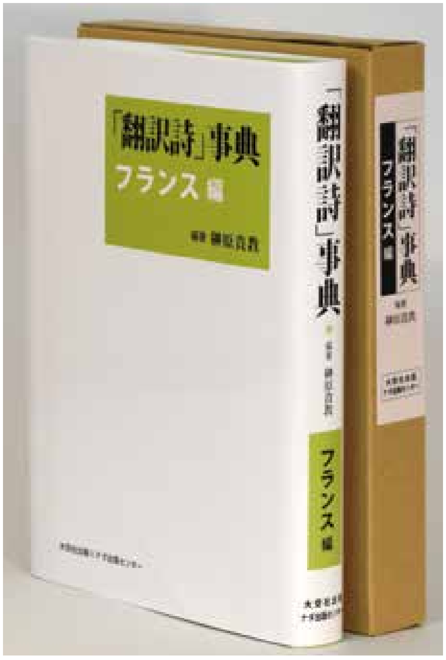
本事典の構成

I 日本とフランス 編（約250頁）
日本近代の翻訳者と重要翻訳作品および文芸・文化・社会思潮関連の事項を、〈原典資料の引用〉を主に構成する。約160項目立項。

II フランス詩人 編（約250頁）
原作詩人（主に19世紀以降30人弱）の明治以降の代表的紹介・論評を〈原典資料の引用〉で構成。また、代表作の翻訳を並列し比較・味読のための他にない資料とする。詩人別「翻訳総合年表」を付す。

参考文献（執筆者別引用文献リスト）
索引（人名・件名・書名）

必携 研究者　詩人　小説家　創作家　文学・詩愛好者…



［2018年7月刊］
ISBN978-4-908926-49-5
B5判・560頁
上製・クロス装・カバー
定価（本体 28,000円＋税）

〈共同出版〉大空社出版
ナダ出版センター

①
こころのうちに泣く涙、
町に降り来る雨のごと、
しのぶおもひのたゆげにも、
など泣きわぶるわがこころ。

②
市にそぼふる雨のごと、
あゝ我心けふも泣く。
如何なればそもわか心、
詫しく辛く痛むらん。

③
都に雨の降るごとく、
わが心にも涙ふる。
心の底ににじみいる
この侘しさは何ならむ。

④
都に雨の降るごとく
心に雨降れり。
魂にしみ入る悲哀の
云ひ様なきものうさよ。

⑤
巷に雨のふるごとく
わが心こそ涙すれ、
胸のなかにし浸み入りし
この衰へのいかなれば。

⑥
しとしとと街にふる雨は、
涙となって僕の心をつたう、
このにじみ入るけだるさは
いったいどうしたことなんだ？

⑦
都に雨のふるごとく、
わが心こそ涙すれ。
わが心をばつらぬける
このたゆたさや何ならむ。

⑧
巷に雨の降る如く
われの心に涙ふる
かくも心に滲み入る
この悲みは何ならん？

（訳例は本事典より）

＊それぞれ誰の翻訳でしょう……
次頁に訳者を紹介（同一訳者のものも含まれています）

I 日本とフランス編

●厖大な言説の集積＝必読・不朽の資料で読む・見る
翻訳詩と翻訳史　近代日仏文芸交流史の枠を結集

翻訳詩に関する過去のさまざまな知見を一堂に会する真の労作。明治・大正・昭和・平成に公刊された五〇〇点余の著作・論文からの〈引用で構成〉し、翻訳詩および翻訳文学の諸問題を尋ねようとする人々が研究するための手がかりを網羅する。

●ユニークな（他書で引けない）項目の数々

人名・書名・作品名のみならず、翻訳と翻訳詩に関わるキーワードが項目・小見出しに採られ、研究テーマの宝庫となっている。

＊項目約160、小見出し約340

❖小見出しの例（「詩の翻訳」「堀口大学」より）

詩の翻訳　精神の変更を可能にする翻訳／英詩の翻訳に未だ成功なし／訳語の借用／二葉亭四迷の翻訳／堀口大学の訳詩／高村光太郎の訳詩／上田敏と堀口大学の訳詩／上田敏の訳詩／大伴宿禰家持の訳詩

堀口大学　堀口大学さんの詩（与謝野晶子）／終生の友／原著より訳書の方が面白い／原作者と同時代に生きる／大正末年の翻訳詩／堀口久萬一の結婚

❖人名・書名・作品名以外の項目より

愛国詩人　漢詩　近代とはなにか　軍歌　言文一致詩　口語自由詩　語学学習の動機　作詩学　散文詩　詩歌文学の科学的研究　詩作の目的　詩の用語　社会詩　唱歌　象徴主義　叙事詩　叙情詩　女性詩人　新散文詩運動　新体詩　新体詩と和漢漢詩　西欧の理想化　戦争文学　日本におけるフランス文学　日本の音韻律美文　フランス留学　翻訳詩　翻訳文学　マチネ・ポエチック　明治の翻訳界　明治の翻訳詩書　ロマン主義…

❖訳詩集・詩論より

有明集（蒲原有明）／於母影（SSS）／海潮音（上田敏）／近代仏蘭西詩集（大木篤夫）／月下の一群（堀口大学）／珊瑚集（永井荷風）／シテールへの旅（井上究一郎）／詩の鑑賞（百田宗治）／白孔雀（西条八十）／青年唱歌集（山田美妙）／世界近代詩十人集（伊藤整）／象牙集（福永武彦）／ダダ・シュルレアリスム新訳詩集（塚原史・後藤美和子）／超現実主義詩論（西脇順三郎）／表象派の文学運動（シモンズ・岩野泡鳴）／フランス抒情詩集（鈴木信太郎）／フランス詩話（斎藤磯雄）／山内義雄訳詩集／リラの花（与謝野寛）…

ら見れば甚だしく物足らぬ微温的なるものとなるのであるが、これは一つの態度をもととした見方で、その態度にあやまりあるにせよ、ないにせよ、その尺度から見れば泡鳴ヴェルレーヌ以外の詩人は、悉く微温的な非デカダン詩人といふ事になるので、この独断的なお山の大将説のために災せられて、詩文壇から泡鳴はつねにカリケチュア扱ひせられた――（日夏耿之介）にある通りの評言で充分だと思う。どこに泡鳴の自負する象徴詩があるのか解らない。むしろデカダン詩人の立場を主張した方が正当ではなかったろうか。）（笹沢美明「日本象徴派について」『現代詩の歩み』、昭和二七年一〇月、宝文館）

■上田敏

外国文学者・翻訳家。明治七年一〇月三〇日～大正五年七月九日（1874～1916）　東京築地に生れる。別号柳村。祖父は文久元年、外国奉行配定役として福沢諭吉らと渡欧。父も慶応二年、渋沢栄一らと渡欧。また母方の叔母上田悌子は岩倉使節団の日本人初の女子留学生として津田梅子らと渡米する。第一高等中学校をへて、明治二七年東京帝国大学英文科に入る。同年「帝国文学」の発起人の一人となり、翌年一月に創刊、毎号のように執筆。三六年、ラフカディオ・ハーン辞任を受けて、夏目漱石らと共に東大英文科の講師となる。四〇年、アメリカをへてフランスに遊学。著書として『最近海外文学』（明治34）『みをつくし』（明治34）『海潮音』（明治38）『牧羊神』（大正8）『上田敏詩集（改訂増補）』（大正14）などがある。

永井荷風のフランスでの面会

★〈おのれ始めて上田先生が辱知となるを得たりしは千九百八年三月先生の巴里に滞留せられし時なり。此より先わが身猶里昂の某銀行に勤務中一日公用にてソオン河上の客桟に嘲風姉崎博士を訪ひし事ありしがその折上田先生の伊太利亞より巴里に來られしことを聞知りぬ。わが胸はいまだ其人を見ざるに先立ちて怪しくも轟きたり。何が故ぞや。そもそも其の年月わが身をして深く西歐の風景文物にあこがれしめしは、かの即興詩人月草かげ草の如き森先生が著書とまた最近海外文學文藝論の如き上田先生が著述との感化に外ならざればなり。わが身の始めてボオドレエルが詩集惡の花のいかなるものかを知りしは上田先生の太陽臨時増刊「十九世紀」といふものに物せられし近世佛蘭西文學史によりてなりき。かくてわれはいかにして佛蘭西語を學び佛蘭西の地を踏まんとの心を起せしが、幸にして今やその望み半既に達せられんとする

＊書影・肖像など図版多数掲載

❖見本（縮小約73％）判型＝B5判（257×182ミリ）

Ⅱ フランス詩人編

●フランス詩人はいかに近代日本人に受容されたか。原作詩と詩人のイメージの実像を厖大な文献〈原典資料の引用〉から跡づける。中でも、訳例の比較と批評は本書の圧巻。

●「アポリネール像」の時代による変遷を具体的に辿る。

アポリネール編

アポリネール

アポリネール Guillaume Apollinaire（一八八〇・八・二六〜一九一八・一一・九）フランスの詩人。イタリア貴族を父に、ポーランド亡命貴族の娘を母としてローマで私生児として生れる。少年時代はモナコで過ごし、一八九九年パリに出る。ピカソやドランと親交を深め、モンマルトルで当時女子学生のマリー・ローランサンと恋に落ちる。彼女との破局後の一九一三年、詩集『アルコール』を出版。アポリネールが正式にフランスの国籍を取得したのは、第一次世界大戦に志願兵として入隊したあとの一九一六年になってからである。

【昭和期のアポリネール像】

★〈死んだギイヨオム・アポリネエルよ
カイゼルが始めたあの戦争が殺した
百萬の人間の中で
私の哀惜はお前の上にあつまる
お前は新美學の探險者であつた
お前は新藝術の金色のアポロだつた
お前は先驅の詩人であつた
お前は藝術の新アメリカの發見者であつた
お前の歌は「種子のやうに蒔かれた」
お前は魔法使であつたら
お前のペンの先から
鳩が出た　月が出た
そして戦報の或る日の夕
お前の頭から
糸のやうな細い血が
一筋長く流れた

アポロの金の……
鉛の弾丸が命……
それが原因で……
千九百十八年……
それは新藝術……
それは私の心……

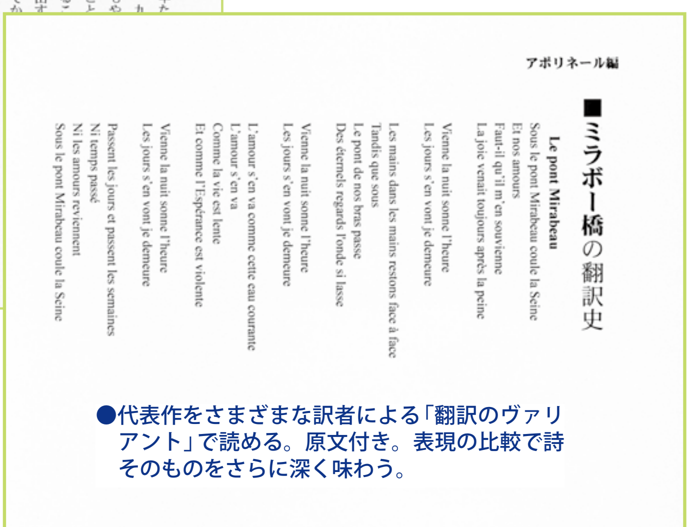
それから一年た……
今日は一九一九……
そしてなほも……
お前を思ふこと……
お前は溺れる……
お前は芽を出す……
お前が死んでか……
今日は一日お前を思ひ
お前のカリグラムを讀んで暮さう〉（堀口大學「金色のアポロ—序詩」『アポリネエル詩抄』、昭和二年一二月、第一書房）

印刷的表現の頂点をなすもの

★〈彼は文學をその額緑からハミ出させようと努めた。／戦争は彼にカリグラムの悪戯を教へた。それは彼の名聲と才能とを賭けた惡い遊びであった。批評家たちは彼の不眞面目を叱った。しかし彼自身は内心この新しい探究にはかなり得意であった。書……

259

●装幀・挿絵等の貴重図版を多数収載。


アポリネール編

■ミラボー橋の翻訳史

Le pont Mirabeau

Sous le pont Mirabeau coule la Seine
Et nos amours
Faut-il qu'il m'en souvienne
La joie venait toujours après la peine

Vienne la nuit sonne l'heure
Les jours s'en vont je demeure

Les mains dans les mains restons face à face
Tandis que sous
Le pont de nos bras passe
Des éternels regards l'onde si lasse

Vienne la nuit sonne l'heure
Les jours s'en vont je demeure

L'amour s'en va comme cette eau courante
L'amour s'en va
Comme la vie est lente
Et comme l'Espérance est violente

Vienne la nuit sonne l'heure
Les jours s'en vont je demeure

Passent les jours et passent les semaines
Ni temps passé
Ni les amours reviennent
Sous le pont Mirabeau coule la Seine

Vienne la nuit sonne l'heure
Les jours s'en vont je demeure

以下に、この詩作品の翻訳を紹介する。

大正14年9月　＊ミラボオ橋（月下の一群）　堀口大學訳　第一書房

ミラボオ橋の下をセエヌ河は流れ
われ等の戀が流れる
わたしは思ひ出す
悩みのあとには樂みが來ると

日が暮れて鐘が鳴る
月日は流れわたしは殘る

手と手をつなぎ　顔と顔を向け合はう

266

●代表作をさまざまな訳者による「翻訳のヴァリアント」で読める。原文付き。表現の比較で詩そのものをさらに深く味わう。

アポリネール編

アポリネール大正・昭和戦前期翻訳年表

275

●現物を確認し、詳細内容を記述した作品年表。次の調査研究への基本資料。

見本縮小

「翻訳詩の地位は、その歴史的役割の大きさに比して、あまりに低い。」

（「翻訳詩」事典 フランス編 刊行にあたって より）

（フランス詩人編　収録詩人）

アポリネール
アラゴン
ヴァルモール夫人
ヴァレリー
ヴィヨン
ヴェルハーレン
ヴェルレーヌ
エリュアール
グールモン
クローデル
コクトー
ゴーチェ
サマン
ジャム
シュペルヴィエル
シュリ・プリュドム
ツァラ
ネルヴァル
ブルトン
ボードレール
マラルメ
ミュッセ
ユゴー
ランボー
レニエ
ローデンバック
ロンサール

＊（3頁）
「ヴェルレーヌ詩」の訳者

①蒲原有明訳（大正11年6月）
②田山花袋訳（明治36年2月）
③鈴木信太郎訳（大正13年9月）
④堀口大学（明治45年1月）
⑤川路柳虹訳（大正4年6月）
⑥金子光晴訳（平成6年2月）
⑦竹友藻風訳（大正10年6月）
⑧堀口大学（昭和2年2月）

研究者・詩人・作家・創作家・愛好家

垂涎の１冊

ボードレール

明治・大正期 翻訳作品集成

編集 川戸道昭（中央大学教授）
榊原貴教

〈共同出版〉大空社
ナダ出版センター

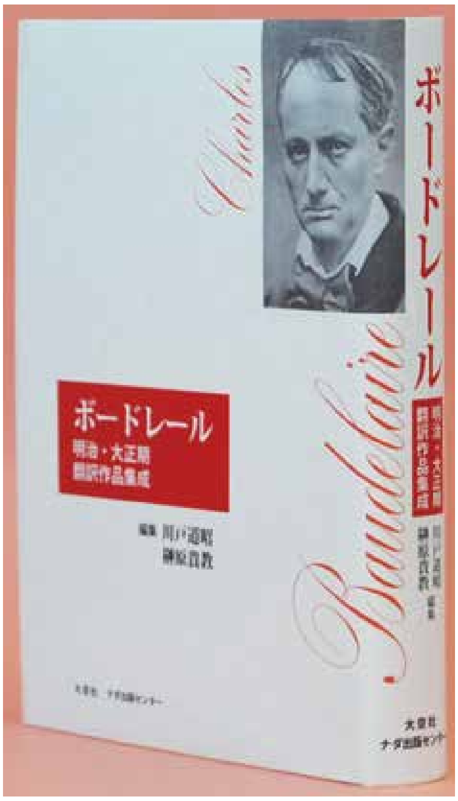
**群を抜く〈翻訳〉量と、近現代日本の
詩人・作家・芸術家・読者に与えた
深甚なる影響度——**

**世界的遺産・詩人ボードレールの作品が
日本人の精神史におよぼした軌跡を
原典復刻でたどる初の資料集**

**“解釈” を超えて
オリジナルな研究が
生れることを願う。**

明治・大正期のボードレールの詩の翻訳量は、他のフランス詩人の翻訳に比べても比類ない。大正末年に至るまでに、すでに一〇〇点を越える翻訳が新聞雑誌に掲載された。そして、その影響は文学史家の想定を超えるものがあった。ボードレール研究を単に「学問」的な狭量な研究にとどめず、日本人の精神史の一環としてとらえるならば、再検討の時期にきていると言える。

上田敏によって幕開けされたボードレールの日本語の翻訳は、蒲原有明、三木露風、永井荷風、内藤濯、仲田勝之助、三富朽葉、山村暮鳥、川路柳虹、大手拓次、堀口大学、谷崎潤一郎、相馬御風という、研究者ではなく、日本近代詩史の担い手たちによって行なわれてきた。ボードレールの詩は、単に日本の読者に届けられていただけでなく、詩人自らの詩作に刺戟を与え続けていた。日本の近代詩はその影響下で生成してきた。その軌跡を明らかにすることが、文学史と文化史の役割であり、また世界的遺産であるボードレールの作品に、現代日本人はいかなる評価と対処をなすべきか、当然フランスのボードレール研究者とは異なる見解が生れてきてもよいであろう。（刊行にあたって・抄）



必携 研究者 詩人 小説家 創作家 文学・詩愛好者…

付「ボードレール翻訳年表
明治〜平成」（２段組・約 50 頁）

［2016 年 6 月刊］
ISBN978-4-283-01327-8
B5 判・430 頁
上製・クロス装・カバー
定価（本体 20,000 円＋税）

ボードレール 明治・大正期翻訳作品集成

編集 川戸道昭・榊原貴教

【内容・構成】

1 明治・大正期に日本語訳されたボードレールの作品（詩・散文詩）を集成、発表年代順に編纂した。

2 可能な限り〈初出〉文献を採用し、新聞雑誌（一部単行書）に掲載の形を再現し復刻した。

3 「ボードレール翻訳年表」（約50頁）を付した。収録作品名を網羅した初の翻訳史年表！

海潮音　上田敏

信天翁

波路遥けき徒然の慰草と船人は、
八重の潮路の海鳥の沖の大夫を生擒りぬ、
楫の枕のよき友よ心閑けき飛鳥かな、
奥津潮騒すべりゆく舷近く群集ふ。
たゞ甲板に据ゑ……
此青雲の帝王も、……
あはれ真白き翼も、……
今は身の仇、……
天飛ぶ鳥も、……

〈明治38年7月〉

ボードレールの詩　永井荷風

死のよろこび

蝸牛匍ひまはる、ねばりて湿りし土の上に、底いと深き穴をうがたん。
われ其處に、老びさらぼひし骨を埋め、水に怪魚の沈む如、忘却の底に眠るべう。
われ遺書を厭み、墳墓をにくむ。死して徒に人の涙を請はんより、
わが亡骸に躊躇ふ事なく食入りて、死の中に死し、魂失せし古びし肉に、蛆虫よわれに問へ。猶も苦悩のありや否やを。（Le mort Joyeux）

憂鬱

物蔽ふ蓋の如くに、低き空重くして、
久しき倦怠の餌に打顫ふ、わが胸押へ、
夜より悲しく暗き日の、
四方閉す空より落れば、
世は混沌の乾かざる昔のさまに立返り、
虫喰へる床を頭に打叩き、・

〈明治42年5月〉

散文小詩（ボオドレエル）　蒲原有明譯

世界の外へ

人生は病院だ、その病院内で各患者は彼のベッドを換へたいといふ希望に駆られて居る。一人が兎ても苦しむなら火の傍で苦しみたいと思つて居れば、また他の一人は窓の側に行つて見たら必つと工合が宜くなるだらうと信じて居る。

そんな譯から私は何處か他の處に行つて居たなら、いつも幸福に暮らせることゝ思つて居る。この居を移すといふこと……

彼の素敵な國土、和蘭に行つて棲む氣はないか。汝が幾度か繪畫を観ては讃嘆した彼の國に棲んで見たら、多分幸福であらうと思ふ。ロッテルダムは何うだらう。汝は帆柱の林、家の戸口に碇泊した船が好きではないか。』

わが靈は無言のまゝだ。

『ではまたバダビヤ、彼處は汝により深い興味を起させさうだ、我々は彼處で熱帯美に交はる歐羅巴の心を見出すこともあらう。』

〈明治43年1月〉

夢幻の彫刻（ボードレール）　大手拓次

奇妙な化物はほれのかざりに、
ただ異形の風をする醜い冠を、
その痩骨のあたまのうへにをかしくのつけてゐた。
拍車もなく鞭もなく馬をあへがせる、
てんかん病み……

〈大正4年1月〉

萬物照應（ボードレール）　川路柳虹譯

見知らぬ國の匂ひ

あたたかき秋の黄昏、二つの眼閉づれば、
燃え立つ君が胸の香に吾は息づく、
われは知る、もの倦き陽炎にゆらめける、
幸ある國の岸べへと伸びゆくを。

……充されぬ。
きみが香に守られて魅はしき國のかたにと。
われは見る一つの港帆と帆檣の影しげく、
滄溟の波にいきなほ疲れ果てたる港を……

〈大正4年9月〉

無韻小詩　ボードレール　山村暮鳥譯

變り者

「もし、君。ENIGMATIC MAN. 君の最愛なるものは誰だ。父か、母か、姉妹か、それとも兄弟か。」
「わたしには父も母も姉妹も兄弟もありません。」
「そんなら友達か。」
「それは、わたしには何の意味もないことでした。その言葉は。」
「では國家。」

〈大正5年11月〉

ボオドレエル詩抄　馬場睦夫譯

高翔

地より高く、谿より高く、
山より、森より、雲より、海よりも高く、
太陽の彼方、大空の彼方に、
散りこぼれた諸天體の限界の彼方に、
私の心は敏捷に昇つて行き、
波間に夢中になる水練家のやうに、
深遠な無限境を快活に切つて行く、
言ふに言はれぬ雄々しい愉悦のその中に。
私の心よ、この病的な悪氣から遠く飛び去れ！
上層の純な大氣に登つて身を淨め、
清浄な靈液のやうに、
……
たやすく理解し得るものゝ、幸福さよ！

萬物照應

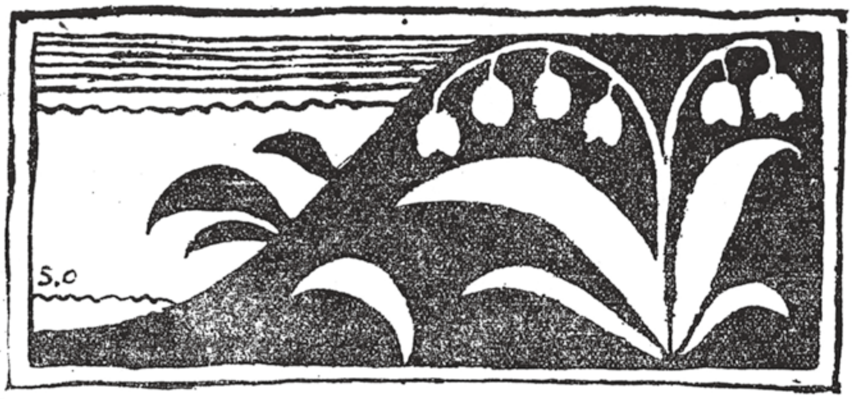
自然は一大伽藍、其處に生きた柱が
朧ろな言葉を時々放つ、
人は　親しげな眼差をして　これを眺める
この象徴の森の木の間を辿り行く。
夜のやうに　光明のやうに　廣大に、
陰秘で深遠な渾一の中に
遠く相混和する　長びく反響のやうに

〈大正9年1月〉

見本縮小

原寸頁見本

判型：B5判（257×182ミリ）



不思議な人

――ボードレエル散文詩集――

谷崎潤一郎

聞かせてくれ、謎の人よ、君が最も愛するのは誰か？　君の父か、君の母か、君の姉妹か、君の兄弟か？

「わたしには父もなく、母もなく、姉妹もなく、兄弟もない。」

では君の友達は？

「わたしにとつては此れまで何の意味をなさない言葉を君は使つて居る。」

君の國は？

「わたしはわたしの國が位して居る緯度をも知らない。」

それなら「美」は？

「彼女ならわたしは進んで愛してもよい、女神であり、さうして不滅であるところの彼女であるなら。」

金は？

「わたしはそれを嫌つて居る、君が君の神を嫌つて居るやうに。」

不思議な人（ボオドレエル散文詩集）　谷崎潤一郎訳　　　解放　大正９年１月　　330

は私が絶えずわが靈に訊る問題の一つなのだ。

『話して呉れ、わが靈、貧寒なわが靈よ、彼のリスボンに棲んだら如何なものだらう？彼處は暖いに違ひない、だから汝は蜥蜴のやうに日當ぼつこをして居ても好いのだ。海にも近いし、人の噂に彼處の家はマアブルで建てられてあると言ふ

一語なし、わが靈は死を欲するのか。

『汝は自らの苦悩をのみ樂しむ彼の深い麻痺の狀態に陷つたのか。それならば、死の姿に像つて造られた土地に、二人で行つて見やう。憐れなるわが靈よ、私は二人の望に適ふその土地を好く知つて居る。トレネオに旅する準備をしやう。

＊資料は掲載の誌（紙）面、組体裁をとどめるように復刻。発表当時の雰囲気とともに時代が甦る。

明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》全50巻・別巻2より

〈「翻訳詩」収録の巻〉全収録作品一覧

＊「詩」を主に収録する巻を選んだ。(他にも一部収録する巻がある。別冊「明治翻訳文学全集・全収録目録」を参照)
＊価格・ISBNは本冊子10頁参照

[第15巻] イギリス詩集 I

●ワーズワス、コールリッジ、バイロン、キーツ、シェリーの明治20年代にかけて発表された約80編を収録。ワーズワス、バイロンは、透谷ら「文学界」同人の浪漫主義に大きな影響を与えた。

【ワーズワス編】 韻文、山の翁(山田美妙訳 国民之友・明24)／子犬(戸川残花訳 日本評論・明25)／郭公詞(島崎藤村評釈 女学雑誌・明治25)／るうしい、ぐれい(宮崎湖処子訳 国民新聞・明25)／我等七人(宮崎湖処子訳 少年園・明25)／稚き折のことを憶ひで〻永劫存在をさとるの歌(家永えい子訳 国民之友・明26)／母のおもひ(家永えい子訳 家庭雑誌・明26)／泉(宮崎湖処子訳 少年園・明26)／三月(大和田建樹訳 日本之少年・明27)／我等は七人(坪内逍遙訳 国学院雑誌・明29)／呼子鳥に(坪内逍遙訳 国学院雑誌・明29)／幼時を憶うて不死を知るの歌(坪内逍遙訳 国学院雑誌・明29)／失題(宮崎湖処子訳 国民之友・明30)／牧人行(宮崎湖処子訳 太陽・明30)／水仙(忘我訳 帝国文学・明31)／雀の巣(尾上柴舟訳 心の花・明35)／吾妹に(波岡茂訳 政教時報・明36)／夕べ(波岡茂訳 政教時報・明36)／飛鹿泉(川田順訳 帝国文学・明37)／反魂香(水上夕波訳 帝国文学・明37)／後代、詩人(厨川白村訳 明星・明37)／落葉(水上夕波訳 明星・明37)／幼児(英男訳 文庫・明38)／雲雀に与ふ(小原無絃訳 読売新聞・明38)／スーザンの幻覚(無署名 新声・明38)／雲雀に与ふ(藪紫影訳 新声・明38)／霊木(藪紫影訳 文庫・明38)／小羊(蘆村漁郎訳 文庫・明38)／児童(本田雙石訳 なのりそ・明39)／胡蝶に(紫嵐訳 文庫・明39)／不滅を示めす幼児の追懐(岩野泡鳴訳 太陽・明41)／我等は七人(萩畔生訳 婦女界・明42)

【コールリッジ編】 君思不能忘(絅斎主人訳 日本之少年・明27)／画像の秘密(戸沢姑射訳 明星・明36)／片雲(尾上柴舟訳 明星・明36)／恋(高田梨雨訳 明星・明37)／「モン、ブラン」の曙(浦瀬白雨訳 新声・明37)／抒情歌(おもわれびと訳 明星・明37)／もんぶらんの朝頌(若月紫蘭訳 帝国文学・明38)／高嶺の曙(衣水生訳 文庫・明39)

【バイロン編】 いねよかし(落合直文訳 国民之友・明22)／Parisina(星海堂主人訳 青年文学・明25)／大海原(大和田建樹訳 日本之少年・明27)／来因の玉づさ(無署名 帝国文学・明31)／ドン、ファンの一節(木村鷹太郎訳 明星・明33)／チャイルド、ハールト漂流記(無署名 帝国文学・明35)／まぜっぱ(皆川真析訳 帝国文学・明36)／風捲簾(大内白月訳 文庫・明37)／祖国の岸を離れて(旅びと訳 明星・明治37)／抒情歌(おもわれびと訳 明星・明37)／『海賊』第三齣(木村鷹太郎訳 国民之友・明38)／「チロン」の俘囚(浦瀬白雨訳 新声・明38)／大洋、故郷を去る曲(衣が浦人訳 文庫・明38)／脚本 海賊(礒萍水翻案 白百合・明39)／ヲータルローの夕(紫嵐訳 文庫・明39)／ションの囚人(榎本秋村訳 文庫・明41)

【キーツ編】 薄命記(平田禿木訳 文学界・明27)／燈影(片上天絃訳 心の花・明37)／幻精賦(金子南冥訳 心の花・明37)／情なき姫(水上夕波訳 明星・明37)／落葉(水上夕波訳 明星・明37)／鳩(青蛙訳 新声・明38)／野にて歌へる(三宅野花訳 心の花・明38)／ワイリー姫に(柴田流星訳 白百合・明38)／情しらぬ手弱女の曲(蒲原有明訳 明星・明38)／人へ(貝葉訳 白百合・明38)

【シェリー編】 告天子の歌(忘我訳 帝国文学・明30)／哀悼(姫河原無鳴訳 白百合・明31)／雲(若月紫蘭訳 帝国文学・明34)／寂寞(高田梨雨訳 明星・明36)／西風賦(水上夕波訳 帝国文学・明36)／雲のうた(佐々木邱羊訳 帝国文学・明36)／微吟(辻村黄昏訳 明星・明37)／萎める菫(くさぶえ訳 新小説・明37)／落葉(水上夕波訳 明星・明37)／抒情歌(おもわれびと訳 明星・明37)／西風に与ふ、雲(藪紫影訳 文庫・明治38)／小曲(藪紫影訳 新声・明38)／銀河(藪紫影訳 文庫・明38)

《論考》北村透谷と西洋文学(中林良雄)／[バイロン受容の問題点(薬師川虹一)]

[第16巻] イギリス詩集 II

●Iに続くロマン派詩集、ロセッティーとテニソンを中心に編集。テニソンはワーズワスの後を受けた大英帝国の桂冠詩人として、明治期の文学に大きな影響を及ぼす。

【ロセッティー編】 名珠余影(そのかみ)(蒲原有明訳 明星・明35)／ゐすがた(蒲原有明訳 芸文・明35)／姉妹(蒲原有明訳 クリスティーナ作 婦人界・明37)／訳詩二章(交唱)(依田碧浪訳 明星・明37)／みける、すこつとのわづらひ 掬水(竹村修竹訳 帝国文学・明37)／三つの影(くさぶえ訳 新小説・明37)／三の影(くれなゐ訳 明星・明37)／文字の跡(貝葉訳 白百合・明38)／わかうど(紫嵐訳 文庫・明39)／さこそあれ(水木英夫訳 新声・明41)／若しも(高山春鳥訳 クリスティーナ作 新声・明41)

【テニソン集】 村好娘、ドラの一生(みどり訳 女学雑誌・明21)／イノックアーデンの歌(回天居士訳 日本之女学・明22)／こがは(国府寺新作訳 少年園・明22)／イナック、アーデン物語(若松しづ子訳 女学雑誌・明23)／英詩和訳(荒庵)(Y生訳 女学雑誌・明23)／別離(無署名 国民新聞・明25)／おうな(若松しづ子訳 女学雑誌・明26)／ドラ(宮崎湖処子訳 家庭雑誌・明28)／シャロットの妖姫(坪内雄蔵評釈 国学院雑誌・明29)／船たび(坪内雄蔵評釈 国学院雑誌・明29)／ドラ女物語(坪内雄蔵評釈 国学院雑誌・明29)／失望(再来訳 国民之友・明30)／マリアナ(戸沢姑射評釈 明星・明33)／空屋(戸沢姑射評釈 明星・明33)／薄因縁(気賀溶々訳 慶応義塾学報・明33)／ドーラ(小原要逸訳 新文芸・明34)／美しき少女ドーラ(かげろふ訳 心の花・明34)／チソーナス(小原無絃訳 文芸界・明35)／夕風(土井晩翠訳 心の花・明35)／野薔薇(一畝庵主人訳 図書世界・明36)／怨嗟(英男訳 帝国文学・明37)／こだま(片上天絃訳 帝国文学・明37)／をとめ(向陽訳 心の花・明37)／おりあな(高田梨雨訳 明星・明37)／五月姫(わか紫訳 明星・明37)／シャーロット姫(高田梨雨訳 明星・明37)／何かはついに消えざらむ(三宅野花訳 心の花・明37)／瀕死の白鳥(英男訳 文庫・明38)／レベンジ号(曙峰訳 文庫・明38)／破船(鳥逕訳 明星・明38)／自由(八九十訳 新声・明38)／聖盃(中島孤島訳 早稲田文学・明39)／雛児のおはなし(子守歌)(長谷川康訳注 英語の日本・明41)／砂洲越えて(欽泉生訳 婦女界・明43)／Locksley Hall(無署名 中外英字新聞・明44)

《論考》「於母影」の周辺(中林良雄)／[ブレイクと日本(松島正一)]

[第22巻] アメリカ詩集

●ロングフェロー、ホイットマンを収める。ホイットマンは36年の鑑三、泡鳴、柳虹らの訳のほか、参考として受容史上重要な漱石、金子馬治、樗牛、鑑三のホイットマン論を収録して日本における詩人像の形成過程をも探る一巻とする。

【ロングフェロー編】 雨の日(中村由道訳 女学雑誌・明19)／世渡りの歌(若松賤子訳 女学雑誌・明19)／高きにす〻め(宮崎湖処子訳 国民新聞・明23)／田舎鍛冶(植村正久訳 福音週報・明23)／マイルス、スタンヂツシユの恋(山路愛山訳 女学雑誌・明24)／フロレンス、ナイチンゲール(戸川残花訳 福音新報・明24)／村鍛冶(宮崎湖処子訳 少年園・明26)／冬日(悠々訳 日本人・明30)／アメリカ三大詩人(武島羽衣註釈 心の花・明32)／里の小鍛冶(枯村白士訳 福音新報・明32)／愛鷹(ときは女史訳 天地人・明32)／ナイチンゲールを讃せる歌(訳者不記 東京評論・明34)／ミューズの降下(尾上柴舟訳 明星・明35)／村の鍛冶(川俣馨一訳 国学院雑誌・明35)／エバンジュリン(河越輝子訳 女鑑・明治三六年)／花あやめの歌(訳者不記 家庭雑誌・明37)／軍神星(訳者不記 英文新誌・明38)／国船(訳者不記 英文新誌・明38)／軍神星(紫嵐訳 文庫・明39)／人生の歌(長谷川康訳 英語の日本・明41)／めざまし日記の一節(桜喬生訳 明治の女子・明41)／陶器(訳者不記 中外英字新聞・明42)／人生の詩(内村鑑三訳 聖書之研究・明45)

【ホイットマン編】死に臨んで余の霊魂に告ぐ（内村鑑三訳　聖書之研究・明36）／露営のあした　愛児の消息（小山内薫訳　新希望・明38）／揺り籠から（岩野泡鳴訳　文章世界・明41）／楽のあらし（岩野泡鳴訳　太陽・明41）／夜、浜辺に（川路柳虹訳　文庫・明41）／ホイトマン散文詩二編（岩野泡鳴訳　新声・明42）／街道の歌（岩野泡鳴訳　太陽・明42）／これらを歌ひて（岩野泡鳴訳　女子文壇・明42）／草とは何？（金子健二訳　心の花・明42）／ホイットマンの散文詩（八橋有春訳　女子文壇・明44）

《参考》『ウオルト、ホイットマン』の詩について（夏目漱石　哲学雑誌・明25）／米国の新文豪ヲルト、ホイットマン（金子馬治　早稲田文学・明27）／ホイットマン（無署名　太陽・明31）／ワルト、ホイットマン（高山樗牛　早稲田学報・明31）／詩人ワルトホヰットマン（内村鑑三　櫟林集（聖書之研究）・明42）

《論考》内村鑑三訳詩集『愛吟』の位置（中林良雄）／［明治期におけるホイットマン受容の諸相（鈴木保昭）］

［第34巻］ゲーテ／ハイネ集

●ゲーテ「若きヴェルテルの悩み」は、明治22年の錦城訳「旧小説」から始まる。その他断片的ながら多くの翻訳が発表された（詩も多い）。ハイネは詩作品ゆえ、あまり目立たぬが30編以上の翻訳がある。この2作家の作品が、日本のロマン主義の一つの源流となっていったことは間違いない。

【ゲーテ編】ミニヨンの歌（ＳＳＳ訳　国民之友・明22）／旧小説（中井錦城訳　新小説・明22）／「ヘルマン・ウント・ドロテア」の梗概（山東生訳　しがらみ草紙・明22）／伊太利の佳人（愛軒居士訳　女学雑誌・明22）／愛国余譚（鈍廼風流士訳　文明の母・明23）／のばら（鍾礼舎訳　国民之友・明23）／妖魔王（大竹みどり訳　少年園・明24）／わかきヱルテルがわづらひ（緑堂野史訳　しがらみ草紙・明26）／悲劇「ファウスト」（大野洒竹訳　国民之友・明30）／花がたみ（忘我訳　帝国文学・明31）／ヘルマン、ウント、ドロテーアの梗概（船尾栄太郎訳　慶応義塾学報・明32）／独詩評釈（涙中の楽）（内海月杖訳　明星・明33）／フワウスト（山田枯柳訳　裏錦・明33）／ゲーテがスタイン夫人に送れる文の中より（大塚楠緒子訳　心の花・明34）／独詩評釈（涙の慰藉）（かげろふ訳　心の花・明34）／西の歌屑（旅人がうたへる夜の歌／おなじく）（かげろふ訳　心の花・明35）／健気なる少女（柴田守中訳　明星・明35）／文のゆきかひ（ゲーテとカーライルと）（野田まづま訳　文芸界・明35）／悲曲怨の刃（福智山人・紫雲村舎主人訳　新小説・明36）／淮亭郎の悲哀（高山樗牛訳　帝国文学・明36）／春の歌（無題）（疑独庵訳　政教時報・明36）／旅人の夜歌／幸福なる航海／希望／魔王（疑独庵訳　政教時報・明36）／涙の慰藉／海浜の秋夜（瓢樽訳　政教時報・明36）／おも影（若きエルテルの煩悶の一節）（まこと訳　心の花・明37）／哀詩（萍雨訳　文庫・明37）／羅馬悲歌集の中より（天壇訳　白百合・明37）／水の霊（金子南冥訳　心の花・明37）／はながつみ（流れに／旅人の夜のうた）（おぼろづきよ訳　明星・明37）／小詩二曲（無題）（おぼろづきよ訳　明星・明38）／楽師（山岸求園訳　白百合・明38）／哀歌（田中紫江訳　文庫・明38）／最期の手紙（英男訳　文庫・明38）／新妻の夜（天壇訳　白百合・明38）／「あふさくるさ」（山岸求園訳　白百合・明38）／水（落合東郭漢訳　心の花・明38）／雲の歌（天壇訳　白百合・明38）／ミニヨンの歌（山岸求園訳　白百合・明38）／最後の書簡（田中紫江訳　新声・明38）／訳詩二章（海の静寂）（氏家摩琴訳　心の花・明38）／歓迎哀別（三井甲之訳　明星・明40）／抄訳二篇（不死不滅／貞操）（原青草訳　明星・明41）／やすみ無き恋／旅人の夜の歌／見出しぬ（塩山訳　アカネ・明41）／新しき生活（塩山訳　アカネ・明41）／羅馬の謝肉祭（山本迷羊訳　新小説・明41）／五月の歌　野薔薇（塩山訳　アカネ・明41）／ゼーゼンハイムへ　夏の夜（塩山訳　アカネ・明41）／海辺の秋の夜（塩山訳　アカネ・明41）／初恋（塩山訳　アカネ・明42）／夕暮と雨との詩（美し夜）（青山郊汀訳　帝国文学・明44）

【ハイネ編】あまをとめ（森鷗外訳　国民之友・明22）／「ロオレライ」（踏青軒主人訳　海潮・明24）／ロレライの歌（雲峯訳　女学雑誌・明24）／ローレライ（紫苑山人訳　女学雑誌・明25）／新詩（うらみ）（桐生悠々訳　日本人・明30）／ハイネが詩（太田玉茗訳　文芸倶楽部・明30）／ハイネが詩（恋のかばね／わかれ／鶯の歌）（太田玉茗訳　少年文集・明31）／花がたみ（皐月の野辺）（忘我訳　帝国文学・明31）／ハイネが詩（絵すがた／君がこゝろ／ほか）（太田玉茗訳　少年文集・明31）／ハイネが詩（夢がたり／君が姿／ほか）（太田玉茗訳　少年文集・明31）／独詩評釈（あまをとめ）（内海月杖訳　明星・明33）／独詩評釈（薄暮）（内海月杖訳　明星・明33）／妖姫（久保青琴漢訳　明星・明33）／独詩評釈（牧童）（内海月杖訳　明星・明33）／ハイネが詩（憂世の旅／少女／ほか）（太田玉茗訳　文芸倶楽部・明33）／はま辺（紅雪訳　心の花・明34）／西の歌屑（無題）（かげろふ訳　心の花・明35）／西詩断片（無題）（かげろふ訳　心の花・明35）／破船者（孤松生訳　文芸界・明35）／蕉影（無題）（尾上柴舟訳　明星・明35）／夢路（かげろふ訳　心の花・明35）／くらら姫（大塚楠緒子訳　明星・明36）／明眸（無題）（尾上柴舟訳　帝国文学・明36）／春の歌／蓮の花（疑独庵訳　政教時報・明36）／蜑のとまや（尾上柴舟訳　新声・明36）／ハイネ三章（無題）（おもはれ人訳　明星・明37）／はいね三章（無題）（おもはれびと訳　明星・明37）／神詣で（月袖痴人訳　ハガキ文学・明37）／花の少女（上田敏訳　音楽・明38）／フラウ、メッテ（白潮子訳　新声・明38）／訳詩三章（海辺にて）（逸名子訳　白百合・明38）／ハインリヒ（熊本謙二郎訳注　英語の日本・明41）／ハイネの詩（あま少女／春の歌／弥生）（永井潜訳　心の花・明41）

《論考》［ハイネと日本（鈴木和子）］

［第35巻］シラー集

●シラーの受容は、明治10年代は自由民権運動の高揚の中で『ウィルヘルム・テル』の翻訳から始まったが、20年代に至ると、自己の運命に諦観し刑場に赴く『メアリー・スチュアート』の訳がしばしば為される。また、鷗外、樗牛、抱月らの美学研究の影響なのか、詩が多く訳された。

希望（可行生訳　国民之友・明22）／シルレル短詩五首（訳者不記　国民之友・明22）／シルレルの短詩五首（訳者不記　国民之友・明22）／野辺おくりの歌の解（や・た訳　以良都女・明22）／鐘歌失火節翻訳並に評釈（遠湖居士訳　文則・明24）／可憐嬢（石松子訳　女学雑誌・明25）／愛の光（美登里訳　青年文学・明25）／アルペン山の猟夫（大和田建樹訳　日本之少年・明27）／マリア、スチュアルト（自適・指月訳　国民之友・明29）／コルムブス（竹の舎訳　海国少年・明30）／ウィルヘルム、テル（中内蝶二訳　新文芸・明34）／少女の歎（中村健一郎訳　心の花・明34）／オルレアンのをとめ（ｍＳＳ訳　心の花・明34）／猟夫（柴田守中訳　明星・明35）／騎士（柴田守中訳　明星・明35）／人質（柴田守平訳　新声・明治三六年）／ウィルヘルム、テルの概略（新保一村訳　少年界・明治三六年）／詩人と自然（残月訳　裏錦・明37）／喜劇　叔乎姪乎（橋本青雨訳　文芸倶楽部・明38）／沈勇（英男訳　文庫・明38）／精舎（厨川白村訳　白百合・明38）／悲劇　メリー女皇（桜井鴎村訳　英文新誌・明38）／誰が罪（橋本青雨訳　帝国文学・明38）／芸術の使命（白潮子訳　新声・明38）／イビュクスの鶴（川下江村訳　明星・明38）／ヘロオとレアンデル（星堂子訳　明星・明38）／群盗（仲野秀治訳　文章世界・明39）／猟人（潮音訳　アカネ・明41）

《論考》［シルレルの実像（池内紀）／シラーと女性読者（渡邉洋子）］

［第50巻］イタリア文学集

●明治31年に発表の資料「通俗地獄廻り」（新発掘）を始めとするダンテ移入の草創期の翻訳と、明治・大正期の日本の文壇を風靡するボッカッチョ、ダヌンチオの翻訳併せて30点を収録。

【ダンテ編】通俗地獄廻り（秋月すみ子訳　福音新報・明31）／びるぜん祈祷（上田敏訳　心の花・明35）／神曲の哀歌（英男訳　文庫・明38）／神曲（高田梨雨訳　明星・明39）／ありとあらゆるわが思（上田敏訳　明星・明40）／ダンテ詩選（上田敏訳　家庭文芸・明40）

【ボッカッチョ編】指環ノ裁判（山王山下の木葉天狗訳　朝野新聞・明19）／牧婦（宮崎湖処子訳　国民新聞・明25）／十日物語之中　可憐鷹（宮崎湖処子訳　国民新聞・明25）／手むけの草（平田禿木訳　世界の日本・明29）／五彩雲（覿面／名ごりの花／夢のうつゝ）（太田玉茗訳　文芸倶楽部・明30）／めぐりあひ（太田玉茗訳　文芸倶楽部・明30）／まごゝろ（太田玉茗訳　文芸倶楽部・明32）／女の鑑（浅野馮虚訳　新文芸・明34）／拾日物語（高田梨雨訳　明星・明41）／喜劇／三箇條（尾崎紅葉訳・栗嶋狭衣脚色　文芸倶楽部・明42）

【ダヌンツィオ編】鐘楼（上田敏訳　帝国文学・明33）／艶女物語（上田敏訳　帝国文学・明33）／花園（たそがれ訳　明星・明治三六年）／おばしま（梧桐夏雄訳　明星・明37）／ひつじ草（梧桐夏雄訳　明星・明37）／庵室（梧桐夏雄訳　帝国文学・明37）／春曙夢（大久保雨枝訳　明星・心の花・明38）／燕の歌（上田敏訳　明星・明38）／光明道（篠懸／シォパンの即興楽をきゝて）（上田敏訳　明星・明38）／日影の花（まぼろし訳　白百合・明38）／生なる死（水木英夫訳　新声・明41）／ぢあるか（狭野茨園訳　アカネ・明41）／ふらんちぇすか物語（石川戯庵訳　スバル・明42）／戯曲／秋夕夢（森鷗外（訳　歌舞伎・明42）

《論考》正宗白鳥とダンテ（中林良雄）／［明治文学とイタリア語イタリア文学（灰谷慶三）］

明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》

各巻分売可

全 50 巻・別巻 2　揃（本体）785,000 円

《新聞雑誌編》《翻訳家編》詳細案内（全収録作品）進呈　＊営業部へご請求ください。

＊たとえばこんな組合せもできます。
ご要望に合わせてお求めください。

国・地域別セット

イギリス編　全 16 巻　揃 240,000 円

1～4. シェイクスピア集Ⅰ～Ⅳ
5. スコット／ブロンテ集
6. ディケンズ集
7. スティーブンソン集
8. ドイル集
9. コリンズ集
10. ワイルド集
11. サッカレー／キャロル集
12. キプリング集
13. 十八世紀イギリス文学集
14. リットン集
15, 16. イギリス詩集Ⅰ・Ⅱ

アメリカ編　全 6 巻　揃 90,000 円

17. アーヴィング集
18. ホーソーン集
19. ポー集
20. マーク・トウェイン集
21. バーネット集
22. アメリカ詩集

フランス編　全 11 巻　揃 165,000 円

23. モリエール集
24, 25. ユゴー集Ⅰ・Ⅱ
26. デュマ父子集
27, 28. ヴェルヌ集Ⅰ・Ⅱ
29. ドーデ集
30. ゾラ集
31, 32. モーパッサン集Ⅰ・Ⅱ
33. フランス文学集

ドイツ編　全 2 巻　揃 30,000 円

34. ゲーテ／ハイネ集
35. シラー集

ロシア編　全 10 巻　揃 150,000 円

36. プーシキン／レールモントフ集
37. ゴーゴリ集
38, 39. トルストイ集Ⅰ・Ⅱ
40, 41. ツルゲーネフ集Ⅰ・Ⅱ
42, 43. チェーホフ集Ⅰ・Ⅱ
44. ゴーリキー集
45. ドストエフスキー集

各国編　各巻 15,000 円

（デンマーク）46. アンデルセン集
（ノルウェー）47. イプセン集
（スウェーデン）48. ストリンドベリ集
（ベルギー）49. メーテルリンク集
（イタリア）50. イタリア文学集

全 50 巻・別巻 2

（各巻）本体 15,000円（別巻を除く）

巻	書名（頁数）	ISBN	ご注文チェック✓
1	シェイクスピア集Ⅰ（360 頁）	978-4-86688-111-9	
2	シェイクスピア集Ⅱ（380 頁）	978-4-86688-112-6	
3	シェイクスピア集Ⅲ（410 頁）	978-4-86688-113-3	
4	シェイクスピア集Ⅳ（450 頁）	978-4-86688-114-0	
5	スコット／ブロンテ集（380 頁）	978-4-86688-115-7	
6	ディケンズ集（430 頁）	978-4-86688-116-4	
7	スティーブンソン集（400 頁）	978-4-86688-117-1	
8	ドイル集（380 頁）	978-4-86688-118-8	
9	コリンズ集（350 頁）	978-4-86688-119-5	
10	ワイルド集（390 頁）	978-4-86688-120-1	
11	サッカレー／キャロル集（380 頁）	978-4-86688-121-8	
12	キプリング集（370 頁）	978-4-86688-122-5	
13	十八世紀イギリス文学集（360 頁）	978-4-86688-123-2	
14	リットン集（430 頁）	978-4-86688-124-9	
15	イギリス詩集Ⅰ（390 頁）	978-4-86688-125-6	
16	イギリス詩集Ⅱ（390 頁）	978-4-86688-126-3	
17	アーヴィング集（310 頁）	978-4-86688-127-0	
18	ホーソーン集（360 頁）	978-4-86688-128-7	
19	ポー集（390 頁）	978-4-86688-129-4	
20	マーク・トウェイン集（370 頁）	978-4-86688-130-0	
21	バーネット集（320 頁）	978-4-86688-131-7	
22	アメリカ詩集（320 頁）	978-4-86688-132-4	
23	モリエール集（380 頁）	978-4-86688-133-1	
24	ユゴー集Ⅰ（450 頁）	978-4-86688-134-8	
25	ユゴー集Ⅱ（440 頁）	978-4-86688-135-5	
26	デュマ父子集（400 頁）	978-4-86688-136-2	
27	ヴェルヌ集Ⅰ（380 頁）	978-4-86688-137-9	
28	ヴェルヌ集Ⅱ（410 頁）	978-4-86688-138-6	
29	ドーデ集（370 頁）	978-4-86688-139-3	
30	ゾラ集（400 頁）	978-4-86688-140-9	
31	モーパッサン集Ⅰ（390 頁）	978-4-86688-141-6	
32	モーパッサン集Ⅱ（400 頁）	978-4-86688-142-3	
33	フランス文学集（370 頁）	978-4-86688-143-0	
34	ゲーテ／ハイネ集（430 頁）	978-4-86688-144-7	
35	シラー集（350 頁）	978-4-86688-145-4	
36	プーシキン／レールモントフ集（360 頁）	978-4-86688-146-1	
37	ゴーゴリ集（380 頁）	978-4-86688-147-8	
38	トルストイ集Ⅰ（360 頁）	978-4-86688-148-5	
39	トルストイ集Ⅱ（380 頁）	978-4-86688-149-2	
40	ツルゲーネフ集Ⅰ（390 頁）	978-4-86688-150-8	
41	ツルゲーネフ集Ⅱ（360 頁）	978-4-86688-151-5	
42	チェーホフ集Ⅰ（340 頁）	978-4-86688-152-2	
43	チェーホフ集Ⅱ（350 頁）	978-4-86688-153-9	
44	ゴーリキー集（440 頁）	978-4-86688-154-6	
45	ドストエフスキー集（370 頁）	978-4-86688-155-3	
46	アンデルセン集（340 頁）	978-4-86688-156-0	
47	イプセン集（470 頁）	978-4-86688-157-7	
48	ストリンドベリ集（310 頁）	978-4-86688-158-4	
49	メーテルリンク集（380 頁）	978-4-86688-159-1	
50	イタリア文学集（440 頁）	978-4-86688-160-7	
別巻1	明治期翻訳文学総合年表（360 頁）	4-7568-0319-9	
別巻2	総目次・総索引（290 頁）	揃 35,000 円	

配本・刊行一覧　＊このセットでもお求めになれます。

回	収録巻	刊行	ISBN	本体価格
第 1 回	1・6・19・27・46	（1996.6）	4-7568-0270-2	72,816 円
第 2 回	2・10・20・24・40	（1996.10）	4-7568-0310-5	72,816 円
第 3 回	3・8・18・26・41	（1997.4）	4-7568-0311-3	72,816 円
第 4 回	4・17・28・31・38	（1997.10）	4-7568-0312-1	72,816 円
第 5 回	12・15・25・45・47	（1998.4）	4-7568-0313-X	72,816 円
第 6 回	9・16・30・34・42	（1998.10）	4-7568-0314-8	72,816 円
第 7 回	7・11・29・39・49	（1999.5）	4-7568-0315-6	72,816 円
第 8 回	5・22・32・35・36	（1999.11）	4-7568-0316-4	72,816 円
第 9 回	13・23・37・43・50	（2000.4）	4-7568-0317-2	72,816 円
第 10 回	14・21・33・44・48	（2000.10）	4-7568-0318-0	72,816 円
第 11 回	別巻 1・2	（2001.5）	4-7568-0319-9	35,000 円

＊表示価格は本体（税別）

近代日本の翻訳作品を総括する
原典資料＆目録＆事典

❖詳細内容案内進呈

・在庫はお問合せください。

世界文学総合目録

全 10 巻・別巻 1　川戸道昭・榊原貴教編（2010-12）　本体 264,000 円

10 万点の外国文学翻訳作品（図書・新聞・雑誌）と原作にたどりつける、かつてない規模の目録。国別編成。別巻は作品名索引。

図説 翻訳文学総合事典

全 5 巻　翻訳文学総合事典刊行会（川戸道昭・榊原貴教）編（2009）　本体 120,000 円

図録、歴史、原作者と作品、シリーズ叢書・全集総覧、研究論文から翻訳文学の全貌を初めて明らかにした事典。

図説 絵本・挿絵大事典

全 3 巻　川戸道昭・榊原貴教編（2008）　本体 95,000 円

絵本・挿絵・画家を日本の児童書 400 年（江戸期～現代）の流れの中に初めて総合的に捉える画期的事典。カラー図版 1750 余点、モノクロ図版 400 点、約 1200 人の画家列伝と作品掲載目録（類書で最多）。

図説 児童文学翻訳大事典

全 4 巻　児童文学翻訳大事典編集委員会編（2007）　本体 120,000 円

①日本の外国児童文学（全カラー 400 頁）　②③原作者と作品　④翻訳児童文学研究（論文・年表・索引）

児童文学翻訳作品総覧 明治大正昭和平成の 135 年翻訳目録

全 8 巻　川戸道昭・榊原貴教編（2005-06）　本体 140,000 円

作品がいかなるイメージと言葉で翻訳されてきたか、訳例と挿絵で具体的に示す画期的目録。

シェイクスピア翻訳文学書集成

全 45 巻・別巻 2　川戸道昭・榊原貴教編（1999-2000）　本体 400,000 円

明治期刊行のシェイクスピア翻訳（翻案）作品の単行書を網羅。

明治のシェイクスピア《総集編》

全 2 巻　川戸道昭・榊原貴教編（2000）　本体 38,000 円

上記「文学書集成」の別巻。シェイクスピア受容の過程・諸相を精緻に考証。図版多数、書誌・目録・年表・索引。

明治翻訳文学全集
《翻訳家編》

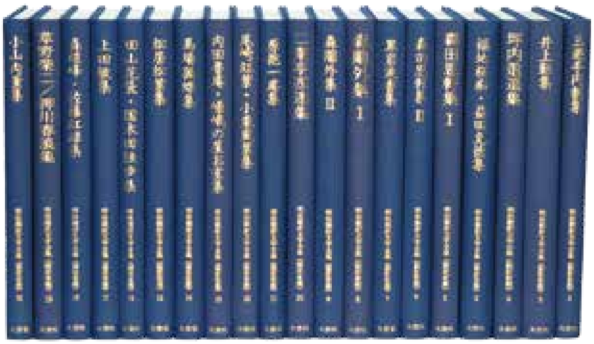
各巻分売可

全 20 巻　揃（本体）785,000 円

全 20 巻		（各巻）本体 15,000円	ご注文チェック✓
巻	書名（頁数）	ISBN	
1	三遊亭円朝集（310 頁）	978-4-86688-161-4	
2	福地桜痴・益田克徳集（470 頁）	978-4-86688-162-1	
3	井上勤集（460 頁）	978-4-86688-163-8	
4	坪内逍遥集（350 頁）	978-4-86688-164-5	
5	森田思軒集 I （370 頁）	978-4-86688-165-2	
6	森田思軒集 II （370 頁）	978-4-86688-166-9	
7	黒岩涙香集（380 頁）	978-4-86688-167-6	
8	森鷗外集 I （380 頁）	978-4-86688-168-3	
9	森鷗外集 II （390 頁）	978-4-86688-169-0	
10	二葉亭四迷集（360 頁）	978-4-86688-170-6	
11	原抱一庵集（330 頁）	978-4-86688-171-3	
12	尾崎紅葉・小栗風葉集（320 頁）	978-4-86688-172-0	
13	内田魯庵・嵯峨の屋お室集（350 頁）	978-4-86688-173-7	
14	馬場孤蝶集（400 頁）	978-4-86688-174-4	
15	松居松葉集（400 頁）	978-4-86688-175-1	
16	田山花袋・国木田独歩集（300 頁）	978-4-86688-176-8	
17	上田敏集（340 頁）	978-4-86688-177-5	
18	森鎧峰・佐藤紅緑集（380 頁）	978-4-86688-178-2	
19	草野柴二・押川春浪集（360 頁）	978-4-86688-179-9	
20	小山内薫集（320 頁）	978-4-86688-180-5	

配本・刊行一覧　＊このセットでもお求めになれます。

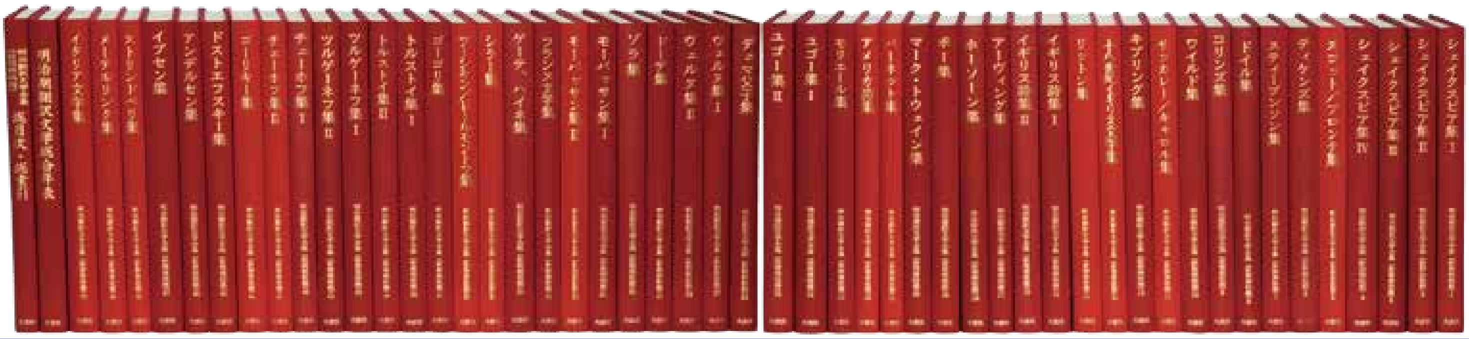
回	収録巻	刊行	ISBN	本体価格
第 1 回	4・5・8・10・19	(2002.1)	4-283-00199-6	75,000 円
第 2 回	1・3・9・12・13	(2002.6)	4-283-00200-3	75,000 円
第 3 回	7・11・14・15・20	(2003.2)	4-283-00201-1	75,000 円
第 4 回	2・6・16・17・18	(2003.7)	4-283-00202-X	75,000 円



明治翻訳文学全集
《翻訳家編》　全 20 巻

☆全巻好評発売中

【体裁】B5 判（257 × 182 ﾐﾘ）・上製・クロス装



明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》　全 50 巻・別巻 2

原典資料で再確認　“翻訳王国”日本の底力

日本の翻訳文学 明治・大正 昭和・平成

「翻訳詩」の饗宴

（本冊子に紹介）

「翻訳詩」事典 フランス編

榊原貴教 編著（2018.7）　978-4-908926-49-5　本体 28,000 円

ボードレール 明治・大正期 翻訳作品集成

川戸道昭・榊原貴教 編集（2016.6）　978-4-283-01327-8　本体 20,000 円

明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》

川戸道昭・榊原貴教 編　中林良雄 編集協力　（各巻）本体 15,000 円

＊「翻訳詩」収録巻

［15］イギリス詩集Ⅰ　［16］イギリス詩集Ⅱ

［22］アメリカ詩集　［34］ゲーテ・ハイネ集

［35］シラー集　［50］イタリア文学集

進呈　全収録作品目録

明治期翻訳文学の一大集成

明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》

全 50 巻・別巻 2　川戸道昭・榊原貴教編 中林良雄編集協力（1996-2001）

明治翻訳文学全集《翻訳家編》

全 20 巻　川戸道昭・榊原貴教・中林良雄編（2002-03）

☆各巻分売可

明治〜現在　日本の翻訳文学を調べる・探す・読む・見る・味わう

〈現物〉に当たる実証主義で貫かれた信頼できる目録・事典・復刻集成

シェイクスピア翻訳文学書集成

全 45 巻・別巻 2　川戸道昭・榊原貴教編（1999-2000）　本体 400,000 円

世界文学総合目録

全 10 巻・別巻 1　川戸道昭・榊原貴教編（2010-12）　本体 264,000 円

図説 翻訳文学総合事典

全 5 巻　翻訳文学総合事典刊行会（川戸道昭・榊原貴教）編（2009）　本体 120,000 円

図説 児童文学翻訳大事典

全 4 巻　児童文学翻訳大事典編集委員会編（2007）　本体 120,000 円

児童文学翻訳作品総覧 明治大正昭和平成の 135 年翻訳目録

全 8 巻　川戸道昭・榊原貴教編（2005-06）　本体 140,000 円

図説 絵本・挿絵大事典

全 3 巻　川戸道昭・榊原貴教編（2008）　本体 95,000 円

詳細内容見本進呈

学術資料出版

大空社出版

©OZORASHASHUPPAN 2018

東京都北区中十条 4-3-2（〒114-0032）

TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461

www.ozorasha.co.jp / eigyo@ozorasha.co.jp

・お取扱い